

会議録

会議の名称	令和3年度第1回行財政改革推進委員会
開催日時	令和3年11月17日（水）13時30分から14時55分まで
開催場所	田無庁舎3階 庁議室
出席者	委員：横道清孝委員長 原田久副委員長 伊藤俊介委員 鈴木文彦委員 池添弘邦委員 岸本恒久委員 佐藤泰治委員 鈴木研太委員 事務局：保谷企画部長 栗田企画部参与兼企画政策課長 近藤企画政策課長補佐 齋藤企画政策課主任 利根川企画政策課主任
欠席者	なし
議題	1 委員長及び副委員長の選出 2 委員会の運営について 3 行財政改革の取組について 4 今後の取組内容について 5 その他
会議資料の名称	資料1 行財政改革推進委員会委員名簿 資料2 行財政改革推進委員会の運営について 資料3 行財政改革推進委員会の運営に関して必要な事項の制定について 資料4 行財政改革の取組について 資料5 今後の取組内容について 参考資料 ・西東京市行財政改革推進委員会条例 ・西東京市行財政改革推進委員会会議傍聴要領
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>《議事進行の都合により「議題1 委員長及び副委員長の選出」及び「議題2 委員会の運営について」は会議録を作成しない。》</p> <p>○発言者名： 発言内容</p> <p><u>議題3 行財政改革の取組について</u></p>	

- 横道委員長：
議題3について、事務局から説明をお願いします。
- 事務局：《資料3に沿って説明》
- 横道委員長：
「行財政改革の取組について」事務局から報告があった。
委員の皆様から意見等はあるか。
- 佐藤委員：
第4次行財政改革大綱で掲げる評価指標について、令和5年の達成に向けた考え方を教えていただきたい。また、アクションプランでの積み上げの数字との乖離があるように見えるがいかがか。
- 事務局：
評価指標とアクションプランとの結びつきが課題と認識している。第5次行財政改革大綱での課題と捉えている。
- 横道委員長：
策定当時に関わっていたが、「持続可能で自立的な自治体経営の確立」を実現するために目指すべき目標値として、かなり高い目標を設定した経緯があったと理解している。
- 鈴木（文）委員：
西東京市の指標は他市に比べて的を射ているものだと感じている。中でも経常収支比率は大事で、西東京市は経常収支比率が改善するよう、予算要求の段階から経常収支比率の改善を意識したバックキャスト方式で予算編成に取り組んでいると聞いている。
- 岸本委員：
財政力指数は今どのくらいの数値か。
- 事務局：
令和2年度で0.908と若干の改善は見られたが、まだまだ厳しい状況である。
- 伊藤委員：
はなバスの運行補助金に関連して、平成28年度の新規ルート追加に伴い補助金の大きな変化があるが、利用者数がそれほど変化してない理由は何か。
- 事務局：
新しいルートを追加したことで新規車両の購入など、はなバス全体の運行経費が膨らんでいる。新規ルート開設から利用者の定着までは相当の期間を要することに加え、開設後まもなく水道管の布設替え工事により長期にわたって迂回ルートを使用せざるを得なかったことが利用者数に影響したものと考えられる。
- 伊藤委員：
庁舎統合方針の見直しは、統合自体を見直すものか。

○事務局：

庁舎統合自体の見直しではない。今年度、田無庁舎の耐力度を調査し、現在の庁舎機能を最大限活用し、統合の時期を後ろ倒しにできないかという検討を行っている。

○原田委員：

新型コロナウイルス感染症の影響で財政調整基金なども相当影響があったものと想像する。その他の評価指標についても影響は出ると思うが、財政調整基金の現状について伺う。

○事務局：

昨年度は 12 回の補正予算を組みながら対策を講じてきたところである。国からの補助金等は実際に歳入されるまで時間がかかるため、一旦は財政調整基金を取り崩し、あとで国の補助金で補填することで対応してきた。市の裁量で一度に使える基金に限りがあるため、大きな政策に対応していくことが難しく、財政調整基金の重要性を改めて認識したところである。

○池添委員：

定員管理の適正化、人材育成の充実の項目では、必要な部署に適正に人員を配置することが重要に思う。これまでの職員の適正配置や人材の育成についてはどのように評価しているか。

○事務局：

近年、職員数はどちらかというと増加の傾向にある。ワクチン対応や特別定額給付金対応等は全庁で組織的に行っている。今後も増加が見込まれる業務について、単に職員を配置するだけではなく経常的な仕事をいかに効率化していくかが課題であると捉えている。人材育成については様々な分野を経験し、総合的に力をつける職員と、比較的長く同じ部署に留まり、専門的な力をつける職員との両面での育成を意識していく必要があると考えている。

○佐藤委員：

職員の庁舎間移動に伴うコストに関連して、民間のように積極的にリモートワークを導入することで移動が不要になり、機能の重複配置や庁舎等の維持管理なども軽減される。現時点でリモートワーク導入の計画や見込み等はあるか。

○事務局：

自宅のパソコンで職場のパソコンと同じ環境で作業ができるよう、ハード面での環境は整備されたが、市役所業務という性質上、市民と接する業務が非常に多いため、両立できるような仕組みを整えていく必要がある。一方でオンライン会議については、今後も積極的に活用し、市民と接する時間は多くとりたいと考えている。

○横道委員長：

D Xについては、第 5 次行財政改革大綱の策定の際、検討していく必要がある。

○鈴木（文）委員：

事務事業評価について、減価償却費を個別の決算に反映することと、事務事業評価を行う時期について予算に反映させられる時期に前倒すことが課題であったが、これらの進捗状況を伺う。また、個別施設計画の策定期間について後ろ倒しにした理由は何か。

○事務局：

減価償却費の反映については依然課題である。評価決定時期については、次年度予算に間に合う時期としているが、事務事業評価報告書としての取りまとめに時間をいただいている。個別施設計画については、住民を対象にしたワークショップ等を試みたが、コロナ禍において住民とのキャッチボールが十分に行えなかった。そのため、総合計画の策定期間に合わせ進めていくよう方針を決定した。

議題4 今後の取組内容について

○横道委員長：

議題4について、事務局から説明をお願いします。

○事務局：《資料4に沿って説明》

○横道委員長：

「今後の取組内容について」事務局より説明があった。
次期行革大綱の策定に向けた議論は令和4年度から行うとのことである。
質問等はあるか。

議題5 その他

○横道委員長：

議題5「その他」について、事務局から何かあるか。

○事務局：

次回の委員会の開催日程には、年明け2月を予定している。
次回の委員会では、行財政改革の方向性について諮問させていただく予定である。

○横道委員長：

これで令和3年度第1回行財政改革推進委員会を閉会する。

《閉会》